

(別紙 7)

3. 汚水の処理方法

イ. 汚水の処理施設の設置場所

別図 5 参照

ロ. 汚水の処理施設に係る工事の着手, 完成及び使用開始 (予定) 年月日

着 工	年	月	日
完 成	年	月	日
使用開始	年	月	日

ハ. 汚水の処理施設の種類等

処理施設の名称	
工場又は事業場における分類番号	
種 類	
型 式	
主要寸法 (W×D×H)	
構 造	別図 6 参照
能力	m ³ / 日
処理の方式	

能力は, 1 日あたりの最大処理量を記入すること。

ニ. 汚水の処理の系統

別図 7 参照

ホ. 汚水の集水および処理施設までの導水方法

別図 8 参照

(別紙 8)

へ. 汚水の処理施設の使用時間間隔, 1日あたりの使用時間及び季節変動

処理施設の名称	
工場又は事業場における分類番号	
使用時間間隔	
1日あたりの使用時間	時間／日
季節変動	

季節変動がある場合はその概要を記載すること。

ト. 汚水の処理施設で使用する消耗資材等

処理施設の名称		
工場又は事業場における分類番号		
消耗資材名	用途名	1日あたりの使用量

消耗資材については使用物の濃度, 等級, 製品名などを明記すること。

(別紙 9)

チ. 汚水処理施設使用時における処理前及び処理後の水質及び汚水の量

処理施設の名称			
通常汚水量			
最大汚水量			
水 質		処理前	処理後
	温 度	通常範囲	～ ℃
		最大範囲	～ ℃
	p H	通常範囲	～
		最大範囲	～
	B O D	通常	m g / L
		最大	m g / L
	C O D	通常	m g / L
		最大	m g / L
	S S	通常	m g / L
		最大	m g / L
	油脂含有量	通常	m g / L
		最大	m g / L
	アンモニア性窒素等含有量	最大	m g / L
		最大	m g / L
		最大	m g / L
		最大	m g / L
		最大	m g / L
		最大	m g / L
		最大	m g / L
		最大	m g / L
		最大	m g / L
		最大	m g / L
		最大	m g / L
		最大	m g / L
		最大	m g / L

該当項目のみ記入。

※アンモニア性窒素等とは、アンモニア性窒素、亜硝酸性窒素及び硝酸性窒素を指す。

(別紙 10)

リ. 汚水の処理によって生ずる残さの種類, 生成量及び処理方法

処理施設の名称			
残さの種類	日あたり生成量	処理方法の概要	備 考

備考欄に工場内処理, 産業廃棄物業者委託等と記入のうえ, 必要に応じて委託契約書, 許可証, マニフェスト等の写しを添付のこと。

ヌ. 汚水を公共下水道に排除する方法

別図 9 参照

ル. その他汚水の処理の方法について参考となるべき事項

--

(別紙 1 1)

4. 公共下水道に排除される下水の量及び水質

イ. 排出口における下水の量及び水質

[illegible]

該当項目のみ記入。排水量とは公共下水道に排出される水の全量をいう。

※アンモニア性窒素等とは、アンモニア性窒素、亜硝酸性窒素及び硝酸性窒素を指す。

ロ. 公共下水道に排除される下水の量及び水質について参考になるべき事項

--

(別紙 13)

参考事項

資 本 額	円	従 業 員 数	全体 当該工場	人 人
主 要 製 品		電 話 番 号		
用 途 地 域		操 業 時 間	時～	時
付 近 見 取 図	ア．下記のとおり	敷 地 面 積	m ³	
	イ．別添のとおり	建 物 面 積	m ³	
担 当 部 課 長		担 当 者		
緊急時等の下水道事務所への連絡体制				
付 近 見 取 図				

別図 5（必要に応じて 5－1 以降枝番を付す）

汚 水 処 理 施 設 の 設 置 場 所

事業所全体配置図に，当該施設の設置場所を着色記入する。

別図 6（必要に応じて 6－1 以降枝番を付す）

汚 水 処 理 施 設 の 構 造

平面及び断面図に型式，構造，材質，寸法等を記載する。必要に応じてカタログ等を添付する。

別図 7（必要に応じて 7－1 以降枝番を付す）

汚水の処理の系統

事業所全体の処理フローに、当該届出分を着色記入のこと。用水，原材料の投入，汚水，製品，廃棄物等の排出を矢印で記入すること。

別図 8（必要に応じて 8－1 以降枝番を付す）

汚水の集水および処理施設までの導水方法

事業所全体配置図に，排水系統を赤線で記入のこと。

別図 9（必要に応じて 9－1 以降枝番を付す）

汚水を公共下水道に排除する方法

排水口の位置，数及び排出先を含めて記入すること。